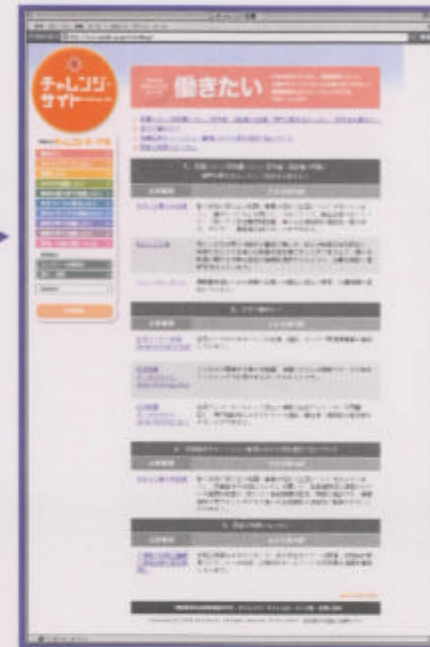


# 「チャレンジ・サイト」遷移図

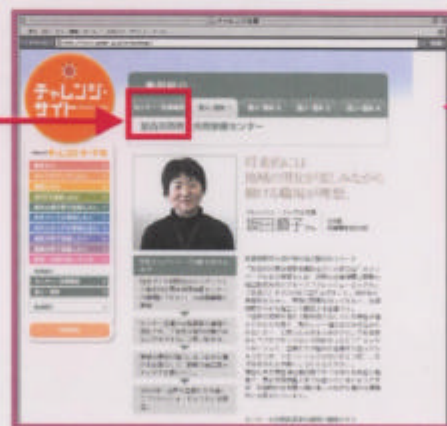
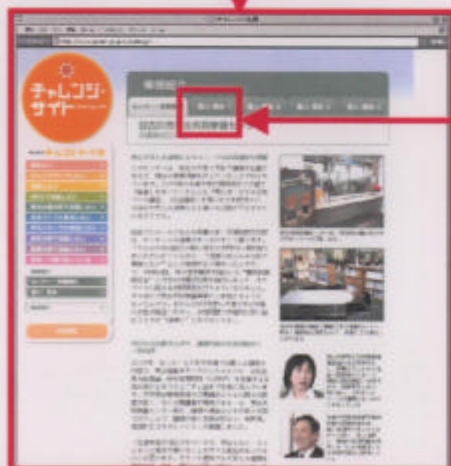
## 各カテゴリーページ



事例紹介：センター・支援機関

メニューページ

事例紹介：センター・支援機関



事例紹介：個人・団体

メニューページ

事例紹介

センターと事例がセットになる場合は、相互にリンクする

チャレンジ・サイト 掲載事例一覧

No.	センター	番号	事例	働きたい	キャリア	起業	NPO	農林水産	まちづくり	ボランティア	研究分野	国際分野	育児
1	福島県男女共生センター(女と男の未来館)												
2	埼玉県男女共同参画推進センター(With Youさいたま)	(1)	女性と仕事を両立するにこぼむの会 中野登美枝代表	◎									
		(2)	あれあれあ 代表者 新井純子						◎				
		(3)	みんなのまち 草の根ネットの会 代表者 宮本節子						◎				
3	足立区男女参画プラザ	(1)	バンビ保育室 鈴木圭子			◎							
		(2)	保育ボランティアの会 代表 藤原幸子							◎			
		(3)	民野ケア 平岡淑子			◎							
4	石巻区立男女平等推進センター	(1)	有限会社メディア・サーカス(NPO法人ベンチャーネットワーク・ジャパン理事)			◎							
5	町田市市民部男女平等推進センター	(1)	特定非営利活動法人 育児サポートあつぷの会										◎
6	横浜女性フォーラム	(1)	NPO法人YOKOHAMA子ども応援団 若井光子代表										◎
		(2)	河原和子			◎							◎
7	新潟県女性センター・財団法人新潟県女性財団	(1)	新潟県女性海外派遣修了者の会 堀内一恵		◎								
		(2)	保育ヘルパーグループ Manu 石橋明子										◎
8	富山県男女共同参画・ボランティア課/県民共生センター	(1)	(株)インテック	◎									
		(2)	富山信用金庫	◎									
9	静岡県男女共同参画センター あざれあ	(1)	W.I.T.Hnetしずおか 鈴木正乃		◎								
		(2)	NPOあそび子育て研究協議会 増田おさみ										◎
10	奈良県センター(資料のみ)	(1)	女性グループ「ばあく」代表 泉澤ちあ子			◎							
			アドバイザー藤了生の企画事業										
11	京都府女性総合センター	(1)	京都子育てネットワーク 藤本明美										◎
		(2)	NPO法人子育て支援コミュニティおふいすパワーアップ 丸橋奏子										◎
		(3)	NPO法人働きたいおんなたちのネットワーク 吉田秀子							◎			
		(4)	NPO法人アウンジャ 岡本カヨ子					◎					
12	川西市男女共同参画・市民活動センター「バレットかわにし」		男女共同参画推進員										
		(1)	保育ボランティアさんりんしゃ										◎
13	芦屋市女性センター	(1)	芦屋ファミリーサポートセンター事務局 吉田										◎
		(2)	「保育グループにここ」辻渡永子										◎
14	宝塚市男女共同参画センター												
15	加古川市男女共同参画センター	(1)	フレッシュビジュアル代表 坂田			◎							
		(2)	子育てグループ 山田										◎
16	内子町交差点産業振興課課長補佐 田中英幸	(1)	内子フレッシュパーク「からり」アグリベンチャー21					◎					
17	福岡市女性センター アミカス	(1)	アミカス起業倶楽部代表 清砂 圭子			◎							
18	北九州市ムーブ												
19	スーパードア久留米(久留米市男女平等推進センター)	(1)	STEP-1 吉岡マサヨ										◎
		(2)	ファンドウ・ネット 田町菜穂子										◎
個人		(1)	福島県女性経営者プラザ 三田会長			◎							
		(2)	大山自治会長 佐藤良子							◎			
		(3)	NPO法人 OCCNET		◎								
		(4)	夢と生活研究所代表 時任和子		◎								
		(5)	(特)宝塚NPOセンター 事務局長 森橋子					◎					
		(6)	NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸(神戸市) 中村順子					◎					
		(7)	株式会社チャイルドハート(神戸市) 木田聖子			◎							
		(8)	(株)セルブ代表取締役社長 小嶋寿美子			◎							
				3	4	10	3	1	4	4	0	0	9

事例分類(3/10現在)

- センター・支援機関 19
- センター関連事例 A(センターの講座をきっかけに起業、センターの施策として活) 24
- センター関連事例 B(自分で活動開始後、センターとの関わりあり) 6
- 独立型事例(センターとの関わりは、セミナー講師等) 8

チャレンジ支援

戻る 進む 印刷 更新 ホーム | 言語入力 プリント メール

アドレス: http://www.gender.go.jp/e-challenge/ 移動

内閣府男女共同参画局

# チャレンジ・サイト Challenge Site

働きたい女性、社会貢献したい女性  
暮らしのクオリティ・アップをめざす  
女性を応援します！

**事例紹介**

センター・支援機関 ▶  
個人・団体 ▶

女性を応援する機関と、積極的な活動を行っている個人・団体の事例をご紹介します。

**拠点紹介** ▶

女性の「やる気」をさまざまな分野でサポートする施設やポータル・サイトです。

## あなたのチャレンジ・テーマ10

働きたい	キャリアアップしたい	起業したい	NPOで活躍したい
まちづくりに参加したい	ボランティアに参加したい	研究分野で活躍したい	農林水産分野で活躍したい
国際分野で活躍したい	育児・介護で困っている	チャレンジしたいこと、相談したいことを10のカテゴリから見つけてください。 	

内閣府男女共同参画局TOP | チャレンジ・サイトとは | リンク集 | お問い合わせ

Copyright © 2004, Naikaku-Fu All Rights reserved, 〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1

マウスオーバー時

チャレンジ支援

戻る 進む 印刷 更新 ホーム | 言語入力 プリント メール

アドレス: http://www.gender.go.jp/e-challenge/ 移動

内閣府男女共同参画局

# チャレンジ・サイト Challenge Site

働きたい女性、社会貢献したい女性  
暮らしのクオリティ・アップをめざす  
女性を応援します！

**事例紹介**

センター・支援機関 ▶  
個人・団体 ▶

女性を応援する機関と、積極的な活動を行っている個人・団体の事例をご紹介します。

**拠点紹介** ▶

女性の「やる気」をさまざまな分野でサポートする施設やポータル・サイトです。

## あなたのチャレンジ・テーマ10

働きたい	キャリアアップしたい	起業したい	NPOで活躍したい
まちづくりに参加したい	ボランティアに参加したい	研究分野で活躍したい	農林水産分野で活躍したい
国際分野で活躍したい	育児・介護で困っている	チャレンジしたいこと、相談したいことを10のカテゴリから見つけてください。 	

内閣府男女共同参画局TOP | チャレンジ・サイトとは | リンク集 | お問い合わせ

Copyright © 2004, Naikaku-Fu All Rights reserved, 〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1



あなたのチャレンジ・テーマ10

- 働きたい ▶
- キャリアアップしたい ▶
- 起業したい ▶
- NPOで活躍したい ▶
- 農林水産分野で活躍したい ▶
- まちづくりに参加したい ▶
- ボランティアに参加したい ▶
- 研究分野で活躍したい ▶
- 国際分野で活躍したい ▶
- 育児・介護で困っている ▶

事例紹介

- センター・支援機関 ▶
- 個人・団体 ▶
- 拠点紹介 ▶

HOME

あなたの  
チャレンジ  
テーマ

# 働きたい

仕事を求めている人、転職希望したい人、  
年齢やキャリアにあった仕事を見つけたい人、  
職場環境をよりよくしたい人などを  
サポートします。

- 1 就職したい/再就職したい/若年者・高齢者の就職/専門分野を生かしたい/定年後も働きたい
- 2 自宅で働きたい
- 3 労働条件をよくしたい/職場における男女差別で悩んでいる
- 4 国家公務員になりたい

## 1. 就職したい/再就職したい/若年者・高齢者の就職/ 専門分野を生かしたい/定年後も働きたい

支援機関

主な支援内容

**女性と仕事の未来館**

働く女性に役に立つ機関・事業の紹介(全国レベル)を行っています。「働きたいとき」を聞くと、ハローワーク、両立支援ハローワーク、(財)21世紀職業財団等、様々な支援機関の連絡先一覧のほか、セミナー、講座等を調べることができます。

**私のしごと館**

若い人たちが早い時期から職業に親しみ、自らの職業生活を設計し、将来にわたって充実した職業生活を過ごすことができるよう、様々な職業に関する体験の機会や情報を提供するとともに、必要な相談・援助等を行っています。

**フレーフレーネット**

再就職準備のための情報や仕事との両立に役立つ育児・介護情報を提供しています。

## 2. 自宅で働きたい

支援機関

主な支援内容

**在宅ワーカー支援**

[Home Worker's Web](#)

在宅ワークのスキルアップの支援、相談、セミナー開催情報等を提供しています。

**在宅就業**

[ポータルサイト](#)

[SOHQ-PORTAL.DLG](#)

SOHQに関連する様々な情報、情報システムの機能やサービス等をワンストップで利用できるポータルサイトです。

**在宅就業**

[ポータルサイト](#)

[SOHQ-PORTAL.DLG](#)

在宅テレワーカーにとって役立つ情報(在宅テレワーカー入門講座)、専門財団職員によるテレワーク相談、報告書・機関誌の提供等を見ることができます。

## 3. 労働条件をよくしたい/職場における男女差別で悩んでいる

支援機関

主な支援内容

**女性と仕事の未来館**

働く女性に役に立つ機関・事業の紹介(全国レベル)を行っています。「労働条件や待遇について」を聞くと、各都道府県に設置されている雇用均等室や(財)21世紀職業財団等、気軽に相談でき、情報提供を受けることができる様々な支援機関の連絡先一覧等を見ることができます。

## 4. 国家公務員になりたい

支援機関

主な支援内容

**人事院人材局企画課**

[人事院各地方事務所](#)

[\(新\)](#)

女性公務員によるメッセージ、女子学生セミナーの開催、女性向け募集パンフレットの作成、女性向けホームページの充実等の情報を提供しています。

[▲ページトップへ](#)

内閣府男女共同参画局TOP | チャレンジ・サイトとは | リンク集 | お問い合わせ

Copyright © 2004, Nafkako-fu All rights reserved. 〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1



あなたのチャレンジテーマ10

- 働きたい ▶
- キャリアアップしたい ▶
- 起業したい ▶
- NPOで活躍したい ▶
- 農村水産分野で活躍したい ▶
- まちづくりに参加したい ▶
- ボランティアに参加したい ▶
- 研究分野で活躍したい ▶
- 国際分野で活躍したい ▶
- 育児・介護で困っている ▶

事例紹介

- センター・支援機関 ▶
- 個人・団体 ▶

拠点紹介 ▶

HOME

事例紹介

- センター・支援機関
- 個人・団体 1
- 個人・団体 2
- 個人・団体 3
- 個人・団体 4

加古川市男女共同参画センター  
兵庫県加古川市

地元大学との連携によりユニークな市民講座を開催  
このセンターは、地元の大塚と共同で講座を企画するなど、独自の地域活動を行っていることで知られています。2003年に兵庫大学附属研究所と共催で「協働」をキーワードとした「男と女・まちの元気づくり講座」(6回連続)を開いたのを皮切りに、今後も大学との連携による様々な活動が予定されているそうです。

仕掛け人の一人でもある兵庫大学・田端和彦助教授は、センターとの連携のきっかけをこう語ります。「うちの大学は設立の際に地元の市町村に援助協力をいただいたこともあり、“地域になんらかの形で貢献したい”という気持ちが元々強かったんです。で、95年以降、市の若手職員が結成した“機軸政策研究会”と大学の附属研究所が協力しあって、まちづくりに関する共同研究を行うようになりました。その流れで男女共同参画事業にも参加するようになったんです。さらに2003年から兵庫大学に女性の次学長が就任したことも、女性問題に本格的に取り組むうえでの“後押し”となりましたね」。

市民の注目度上がり、講座内容の充実が図れて一挙両得

2003年、センターと大学が共催で企画した講座の内容は、男女協働をテーマにしたものから、女性社長の起業論、NPO支援団体(CS神戸)を主催する女性代表によるコミュニティ論まで多岐に及んでいます。大学側は単独主催の公開講座よりも市民の注目度が高く、多くの聴講客が期待できる一方、男女共同参画センター側も、講師の選定などを大学と共同で行うことで、講座内容の充実が図れて一挙両得、理想的なコラボレーションが実現しました。

「生涯学習が注目されている今、男女ともに、もっともっと身近で様々なことを学べる機会があってもいいと思います。そういう意味でも大学との連携は有効です。また、講座の企画とは別に、センターでは“男女共同参画社会づくり研究会”という市民参加の組織を結成して勉強会や情報誌の発行も行っています。研究会のメンバーの中には、独自にボランティア活動に参加したり、起業したりと新しい動きも生まれつつあるようです」(男女共同参画推進担当副理事長・北谷さん)。

規模は決して大きくないセンターですが、スタッフの皆さんはたいへん積極的。「男女共同参画について広く知ってもらうには、外に飛び出すのが一番」と、今年度からは出前講座も実施しているそうです。1プラス1＝2ではなく、他組織とのネットワークが形成されたことにより、それ以上の効果を生み出すに至った好例と言えるでしょう。



男女共同参画センターは、市庁舎の隣の青少年女性センターの2階にある。



資料や書籍が自由に閲覧できる情報コーナー。明るく開放的な空間なので、気軽に立ち寄ることが出来る。



加古川市男女共同参画推進担当副理事長の北谷津子さん。前職は加古川ウェルネスパーク(音楽ホール、図書館、スポーツ施設の複合施設)の時代から、田端先生とはお知り合い。人的ネットワークが連携のきっかけにもなったとか



兵庫大経済情報学助教授の田端和彦先生。農工商議所や県とのつながりも深く、県と連携し、地域や経済問題を研究する「ため池研究会」なる市民学習会も開催している

●施設概要

加古川市立青少年女性センターの2階フロアに事務室と相談室、情報コーナーなどを開設。

●事業例

市民講座や出前講座のほか、市民スタッフ養成講座、働く女性のためのキャリアアップセミナー、情報誌の発行、夫婦問題などの女性相談も行なっている。

●住所と交通アクセス

兵庫県加古川市加古川町北在字2718 青少年女性センター2階。JR神戸線加古川駅より徒歩15分。

●問合せ

電話0794-27-9767

▲ページトップへ



あなたのチャレンジテーマ10

- 働きたい ▶
- キャリアアップしたい ▶
- 起業したい ▶
- NPOで活躍したい ▶
- 農林水産分野で活躍したい ▶
- まちづくりに参加したい ▶
- ボランティアに参加したい ▶
- 研究分野で活躍したい ▶
- 国際分野で活躍したい ▶
- 育児・介護で悩んでいる ▶

事例紹介

- センター・支援機関 ▶
- 個人・団体 ▶
- 施設紹介 ▶

HOME

事例紹介

- センター・支援機関
- 個人・団体 1
- 個人・団体 2
- 個人・団体 3
- 個人・団体 4

加古川市男女共同参画センター  
兵庫県加古川市



坂田さんがグループ活動を始めるまで

2004.4  
社会づくり研究会のメンバーとして加古川市男女共同参画センターの情報誌「みらい」の企画編集に参加

2003.5  
センター主催の女性起業家の講座に感化され、「女性も何力次第ではなんでもできる」と思い始める。

2003.8  
地域の男女が協力しあいながら働ける仕事として、野菜の加工業のアイデアを思いつく。

2003.9  
近所の主婦たちを誘って「フレッシュ・ピククル」を設立。



商品は地域のJAのふゅーるんショップで販売中。安くても美味しいと好評だとか。



出荷作業は毎朝行なうが、朝をついたり漬物を作ったりのはあ作業は週に3回。漬物には皆さんそれぞれがこだわりを持っていて、意見の相違でケンカになることも。



フレッシュ・ピククルのメンバーの皆さん。作業の後は好劇の身戸塚会議が始まる。

将来的には  
地域の男女が楽しみながら  
働ける職場が理想。

フレッシュ・ピククル代表  
坂田順子さん 54歳  
兵庫県加古川市

低農薬野菜の漬け物の加工販売をスタート

「加古川市男女共同参画社会づくり研究会」のメンバーでもある坂田さんは、近所の主婦仲間と野菜の加工販売を行うグループ「フレッシュ・ピククル」（非法人）を2003年に立ち上げました。株の多い地域性を生かし、仲間と野菜を作り、それを加工して販売する仕事です。

「近所に定年を迎えて時間に余裕のある男性が増えたのを見て、男のへと一緒になにか始められないか?」と思ったのがきっかけです。でも女性から「ブラブラしてないで何かやったら?」とイヤミをいうより、主婦たちが始めた仕事を手伝ってもらおうが、うまくいくんじゃないかと(笑)。まずは自分たちが動くことにしたんです。

現在はまだ男性陣は農作業やラベル作りを手伝う程度で、男女共同参画とまでは至っていないようですが、将来的には夫婦一緒に楽しみながら働ける環境作りを目指しています。

センターの女性起業家の講座に感化されて

坂田さんが新しい仕事にチャレンジしようと思ったのには、男女共同参画センターの講座の影響が大きかったようです。

「チャイルドハートというWEBカメラを設置した保育園を設立した木田さんの講座に参加し、主婦という立場でも一生懸命やれば、なんだってできるんだと思うようになりました。」

低農薬の素材のみを使用し、化学調味料は一切使わずに加工された漬物類は美味しいと好評で、売り上げも順調に伸びていると聞きましたが、始めた当初は苦勞することも多かったとか。特に低農薬にこだわったために、苦勞にはさんざん顔を悩まされたそうです。

「実は私、農家に詳しいだけにずっと仕事は大嫌いだっただけです。でも、この仕事をはじめようになつて、苦勞というよりも逆に農作業が楽しみになってきました。美味しいってお客様に直接言われたり、電話で注文を受けたりすると嬉しいですね。男は今ごろ農作業に勤む私を見て、天国で笑ってるかもしれません」

積極的に動いてみることから楽しみが生まれます

仕事一緒に行っているメンバーは近所の気心の知れた主婦5人。毎朝出荷作業を行い、JA兵庫南のショップに卸しています。

「作業している時間より、わいわいおしゃべりしている時間のほうが長いくらい。最初はみんなのお茶代くらい稼げればいいわねって思っていたんだけど、最近はお金が出てきました。やっぱりお金は励みにもなりますからね。この仕事を始めてみてわかったのは、仮にもしなないと楽しみは生まれてこないということ。とにかく積極的に動いてみるのが肝心なんじゃないかしら……」。

▲ページトップへ

内閣府男女共同参画局TOP | チャレンジ・サイトとは | リンク集 | お問い合わせ

Copyright © 2004, Nankaku e-J All rights reserved, 〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1



あなたのチャレンジテーマ10

- 働きたい ▶
- キャリアアップしたい ▶
- 起業したい ▶
- NPOで活躍したい ▶
- 森林水産分野で活躍したい ▶
- まちづくりに参加したい ▶
- ボランティアに参加したい ▶
- 研究分野で活躍したい ▶
- 国際分野で活躍したい ▶
- 育児・介護で困っている ▶

事例紹介

- センター・支援機関 ▶
- 個人・団体 ▶
- 拠点紹介 ▶

HOME

事例紹介

センター・支援機関

個人・団体 1

個人・団体 2

個人・団体 3

個人・団体 4

福岡市女性センター アミカス

福岡県福岡市

高い起業率の「女性の起業支援セミナー」

福岡市女性センター アミカスは、昨年創立15周年を迎えました。この間センターの利用者は300万人を超え、センターの活動が地域に密着していることがよくわかります。

このセンターでは、1994年から「女性の起業支援セミナー」を開催しています。現在までに11回が開催され、2003年に行われた修了生の追跡調査では、2002年までの講座の修了生331人のうち、64人が起業に成功し、開業率は約35パーセントが事業拡大に成功しています。しかも講座終了後3年以内での起業が80パーセントを超えています。この数字は、起業セミナーが受講生にとってとても実効的な内容であったことを示すものだと思います。

女性の視点を活かせるような講座内容に

女性の起業支援セミナーの大きな特徴は、これまで会社経営にまったく縁のなかった人や、経営についての知識がまったくない人でも、基本から学べるということと、コミュニティビジネスや女性ならではの視点に立ったビジネスなどでも起業できるような工夫がなされているということです。

「講座は、アミカス起業倶楽部で活動している地元的女性起業家の方たちの意見も採り入れ、講師の選定や内容など工夫するようにしています。また、それぞれのビジネスプランが実現できるように、講師といっしょになって追求していくということが大切にされていますので、その実効的な内容になっているのだと思います」と事務局の宮原美子さん。

起業家をネットワークするアミカス起業倶楽部

アミカスのもうひとつの特徴は、ネットワークづくりに積極的な役割を果たしているということです。女性のための起業支援セミナーの修了者を中心に運営されているアミカス起業倶楽部もそのひとつです。

またアミカスでは、ここで活動する団体が、発表・交流する場として年に1回「まつりアミカス」も盛大に行われています。「起業倶楽部は自主的な活動ですが、そこで学習会をしたり、地域の起業家の交流会が行われたりして、ネットワークがどんどん広がっています。また、まつりのように違った団体同士が交流する場をも設けることで、さらにネットワークが広がり、活動の場としてアミカスがどんどん活用されていくことを望んでいます」と館長の野口節子さん。



15周年記念式典では、国連ハビタット親善大使でもあるマリ・クリスティエーヌさんを招いてのシンポジウムが行われました



福岡市女性協会の常務理事でもある館長の野口節子さん



女性の起業支援セミナーの講座では、受講生もとても積極的です



まつりアミカスではそれぞれの団体が日頃の活動成果を発表します

●施設概要

相談室、図書室、視聴覚室、ギャラリー、運動室、託児室、ホールを備え、多目的に利用できる。

●事業例

起業講座だけでなく各種の女性の能力開発のための講座やキャリアアップ講座、女性学など男女平等をめぐる意識改革の講座、託児ボランティアの養成講座、国際交流のための講座など多彩。自主講座なども積極的に行われている。夫婦間の問題などの相談会も開催。

●住所と交通アクセス

福岡県福岡市南区高宮3-3-1 西鉄高宮駅前  
<http://www.amikas.or.jp>

●問合せ

電話092-526-3755  
FAX092-526-3766

▲ページトップへ

内閣府男女共同参画局TOP | チャレンジ・サイトとは | リンク集 | お問い合わせ

Copyright © 2004, Naikaku-fu All rights reserved, 〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1



- あなたの「チャレンジ」を支援
- 見たい
  - 知りたい
  - 学びたい
  - HPで活用したい
  - 資料を無料で活用したい
  - まわすことに参加したい
  - ボランティアに参加したい
  - 活動分野で活躍したい
  - 活動分野で活躍したい
  - 育児・子育てで頑張っている
- お問い合わせ
- センター・支援機関
  - 個人・団体
  - 拠点紹介
- HOME

### 事例紹介

センター・支援機関 個人・団体 1 個人・団体 2 個人・団体 3 個人・団体 4

## 福岡市女性センター アミカス

福岡県福岡市



## 女性の視点のビジネスをネットワークで支えていきたい

アミカス起業倶楽部代表  
株式会社フラウ代表取締役  
濱砂圭子さん

#### 濱砂さんのこれまでの活動

出産を機に育児サークル「ボニークラブ」を立ち上げる。

当業者の目から見た育児のために役立つ情報を発信する新聞の発行を始める。

これから産あ育でいく人のために福岡の育児関連情報は「子育てDE CHA・CHA・CHA」を発行。本誌を発行して、出版活動を本格化する。

企業経営の基本を学ぶためにアミカスの「アミカスの女性のための起業支援セミナー」を受講する。終了後は有志とアミカス起業倶楽部を組織し活動を開始。

各種出版を手がけながら、全国のおかあさんたちの「ママーズサミット・ネットワーク」をはじめ、子育て支援、バリアフリーの街作り、環境、起業家支援など多岐にわたる活動を行っている。

真っ白な手帳を見てアイディアが沸きあがった気分。広告代理店でコピーライターとして働いていた濱砂さんは出産を機に退職。しかし、数日後には、「すごく忙しくて働いていたのに、カレンダーや手帳が真っ白。毎日が日曜日。そのとき、自分が社会からまったく必要とされていない人間のように思えて、落ちこんでしまった」と言います。しかし、育児を始めると同時に、濱砂さんのアンテナはめまぐるしく動き始めます。「育児をしているときに、本当に必要な情報がないという状況に気づいたんです。また地域で、育児に行き詰まっていたり、社会から取り残されていくんじゃないかって不安を感じているお母さんの存在に気づいたんです」

濱砂さんは、1990年に育児サークル「ボニークラブ」を立ち上げます。そこでのお母さんたちとの交流から、子育てに必要な情報を、もっと広く発信していくことを考えます。

雑誌、会社がまずあります。それから「アミカス女性の起業支援セミナー」

「たとえば、子連れでかけて天神あたりでトイレに入ろうとしても、赤ちゃんを連れて入れるトイレなんかぜんぜんない。哺乳もできない、それが当時の福岡では当たり前だった。そこで、ボニークラブのおかあさんたちを中心に福岡の子育てを取り巻く状況を調査して、92年、出産4か月後に『子育てDE CHA・CHA・CHA』を自費出版で創刊しました」

デパートのトイレ事情や小児科医の情報など、地域に密着したきめ細やかな育児情報を掲載したこの本は完売。そこで濱砂さんは事務所を借り、93年7月に有限会社フラウを設立し、本格的に出版事業を開始します。

「社長になったといっても、会社の経営とか社長業についてはまったく知識がなかった。とにかく企業経営についての基本を学びたかった」ということから、第1回アミカスの女性のための起業支援セミナーを受講しました。

「経営上の基本的な言葉や方法、ビジネスプランの立て方など、とにかく新鮮でしたし、本当に自分が必要としている知識をもらえました。そこで学んだことで、経営者としての自覚も生まれました」

お互いに刺激しあえるネットワーク「アミカス起業倶楽部」を設立

「セミナーの終了後、アミカス起業倶楽部をつくったのは、学んでそれで終わりというのではなく、お互いに高め合い、刺激しあえるネットワークがあったらいいなと思ったからです」

現在、アミカス起業倶楽部では、毎月1回のフォローアップセミナーを開催しているほか、起業支援セミナーの内容充実のためのサポート、人間づくりや情報交換のための交流会などを開催しています。

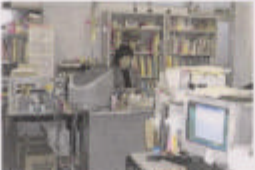
「子育てDE CHA・CHA・CHA」から始まった活動は、同じような活動をしているおかあさんたちのママーズサミット・ネットワークという全国10万人規模の大きなネットワークになり、子育て環境の変化のために情報を発信しています。アミカス起業倶楽部もこのようなネットワークに成長していきつつあります」



濱砂さんが自費出版した『子育てDE CHA・CHA・CHA』の創刊号。現在は、ムックなどの数冊も出版しています



地方の『子育てDE CHA・CHA・CHA』。地域密着型の子育て情報誌としては知られています



倶楽部ではスタッフが編集作業に追われていました。濱砂さんもここで高橋を助いたり、作業の指揮にあたったりします

内閣府男女共同参画局TOP / チャレンジ・サイトとは / リンク集 / お問い合わせ





あなたのチャレンジ・テーマ10

- 働きたい ▶
- キャリアアップしたい ▶
- 起業したい ▶
- NPOで活躍したい ▶
- 産休・育休分野で活躍したい ▶
- まちづくりに参加したい ▶
- ボランティアに参加したい ▶
- 研究分野で活躍したい ▶
- 国際分野で活躍したい ▶
- 育児・介護で頑張っている ▶

事例紹介

- センター・支援機関 ▶
- 個人・団体 ▶
- 拠点紹介 ▶

HOME

事例紹介

- センター・支援機関
- 個人・団体 1
- 個人・団体 2
- 個人・団体 3

足立区男女参画プラザ  
東京都足立区

受講後に多くの女性が起業する  
実践的な支援塾を開催

足立区では、2003年4月に「足立区男女共同参画社会推進条例」を施行。その14条で「区は、起業を目指す女性に対して、その能力と発想を十分に活かすことができるように、情報の提供、経営に関する支援その他必要な支援に努めなくてはならない」と定めています。この条例をもとに現在、男女参画に関する具体的に実践的な起業支援が行われていますが、条例施行以前から男女参画プラザでは、「あだち起業家支援塾」という起業のための講座を開催してきました。

「あだち起業家支援塾」の講座終了後に受講生を対象に行ったアンケート調査によると、回答を寄せた57人のうち、実に29人の女性が起業しているという結果も出ています。その業種はパソコンスクールや塾、リサイクルショップ、アクセサリオンラインショップ、葬祭サポート、パン屋さんなど多岐にわたり、規模もスタイルもさまざま。まさに、「夢や特技などを生かして起業したい」というそれぞれの思いが、受講をきっかけに実現していることがわかります。

「あだち企業家支援塾」と  
「保育ボランティア養成講座」が大きな柱

2003年9月に足立区男女参画プラザが新産業支援課と協力して新たに実施した「あだち起業家支援塾入門コース」（2日間・受講料5,000円・別会場で実施）には、32人が参加。講師に弁護士や公認会計士、経営コンサルティングの専門家、実際に起業した人などを招き、法律問題や融資の受け方、会社設立の心構え、事業計画書の作り方、起業の事例などより具体的に実践的なアドバイスを行いました。また、新産業支援課で立ち上げた起業家交流会は、この講座を終了した人たちのフォローアップの場としても貢献し、起業家同士のネットワーク作りなどがさかんに行われています。

また、「保育ボランティア養成講座」を開催し、講座終了後に多くの女性が保育活動を実施しています。受講する間子どもを預けた人が、その後は子どもを預かるボランティア活動に参加するという例も多々あります。このほかにも「女性のためのコミュニケーションスキルアップ講座」や「区政参画塾」など女性向けの講座に加えて、「家事する男はカッコいい！」など男性の自立を促すセミナーも開催。男女共同参画社会が女性のためだけでなく、広くアピールしています。



1988年に足立区婦人総合センターとしてオープン以来、Lソフィアの愛称で親しまれる足立区男女参画プラザ



Lソフィア2階にある男女参画プラザ。スタッフが丸くなってより実践的な支援に取り組んでいます



1万6千冊以上の図書・行政資料・雑誌（70誌）のほか、ビデオの閲覧や貸し出しも行う情報資料室

●施設概要

「Lソフィア」の愛称で親しまれる建物の1～5階に、事務室や情報資料室、ホール、相談室、サークル活動室などを開設。地域学習センターと消費者センターを併設。

●営業例

「あだち起業家支援塾」や「保育ボランティア養成講座」などの講座をはじめ、女性相談室では女性問題専門のカウンセラーによる相談も行っている。

●住所と交通アクセス

東京都足立区梅田7-33-1  
東武伊勢崎線梅島駅より徒歩3分。

●問合せ

電話03-3880-5222

▲ページトップへ

内閣府男女共同参画局TOP | チャレンジ・サイトとは | リンク集 | お問い合わせ



あなたのチャレンジテーマは?

- 働きたい
- キャリアアップしたい
- 転職したい
- NPOで活躍したい
- 専業主婦分帯で活躍したい
- まちづくりに参加したい
- ボランティアに参加したい
- 研究分野で活躍したい
- 芸術分野で活躍したい
- 育児・介護で頑張っている

事例紹介

- センター・支援機関
- 個人・団体
- 個人・団体
- 個人・団体

- 活動紹介

HOME

事例紹介

- センター・支援機関
- 個人・団体 1
- 個人・団体 2
- 個人・団体 3

足立区男女参画プラザ  
東京都足立区



足立区男女参画プラザ 保育ボランティアの会代表・藤原幸子さん（写真中央）

保育ボランティアを通じて  
学ぶ男女を支える

保育ボランティアの会代表  
藤原幸子さん 東京都足立区

藤原さんがボランティアの会に参加するまで

足立区男女参画プラザ主催の保育ボランティア養成講座を受講。

保育ボランティア養成講座を受講中に、会のメンバーに子どもを見てもらおう

養成講座終了後、保育ボランティアの会に参加。区内各所で保育ボランティアをする。

養成講座を受講する人の子どもを預かる



子どもたちのおやつのお話をする藤原さん。ボランティアのみなさんもおやつ代を出すそうです。



子どもたちを母親に預けた後で、保育ボランティアのお仲間（Lソフィア内の保育室で）。

保育ボランティア養成講座修了者で結成

「足立区男女参画プラザ（保育ボランティアの会）」は、足立区男女参画プラザ（旧、足立区女性総合センター）が主催する「保育ボランティア養成講座」を終了したメンバーによって、1988年に結成されました。現在、約30名いるメンバーは、「かるがも」「まあらいでるうま」「トトロ」「おひさま」の4つのグループで活動しています。「おひさま」に所属する藤原幸さんは会の代表として、足立区男女参画プラザとの調整やメンバーへの連絡などで活躍しています。

メインとなる活動は、足立区男女参画プラザが主催するさまざまな講座や事業に際して、受講中の親から預かった子どもたちを保育することです。プラザのあるエル・ソフィア内の保育室のほか、地域学習センター、スポーツセンター、保健所、学校など、活動場所は区内各地に広がっています。最近では、勉強会や学習会などを催している母親たちの自主グループから保育の依頼を受けることもあるといいます。以前は2歳以上の子どもでしたが、いまは生後6ヶ月の子どもから預かっているとか。

学びを通じて母親たちの表情が変わってくる

地域や社会活動に参加するために、さまざまなことを学びたいというニーズが高まっています。それを満たすには、子どもを預けて安心して学習に専念できる時間や環境が必要です。「保育ボランティアの会」の活動には、単に自分たちが学んだ保育のノウハウを生かすだけでなく、「学ぶ男女を支える」という意味合いがあります。そうした学びの場に参加することで、それまで外に出る機会が少なかった母親たちの表情が変わってくるといいます。さらに子どもが楽しんでいる様子を見ることで、別の講座や学習会にも積極的に受講しようという意欲が親の間に生まれてきます。「それが母親自身の社会参加や子連れにつながってほしい。なによりも苦いお母さんたちの成長を見るのが楽しみです」と、メンバーのコメント。

若い母親と交流することで自分たちも学ぶ

「この会は30代～70代まで、幅広い年代のメンバーが集まっているのが特徴です。私自身が保育ボランティア養成講座を受講しているときに、この会のメンバーに子どもを見てもらいました」という藤原さん。自分が学ぶときに子どもを預かってもらい、学び終えたら、次に学ぼうと思っている親の子どもを預かる—このような保育循環を通じて、世代から世代へ子育ての知恵や文化が受け継がれていくのではないかと印象を受けました。「自分たち自身も若い母親たちとの交流を通じて、いまの子育てや親子関係を学ぶことができます。また、メンバーにはそれぞれ地域の仲間がいますが、こうして保育ボランティアの現場に出ることで普段とは違った仲間との接点ができ、関係や視野が広がっていくのです」。

内閣府男女共同参画局TOP: チャレンジ・サイトとは | リンク集 | お問い合わせ

Copyright © 2004, Keikaku-iu All rights reserved. 〒100-0914 東京都千代田区永田町1-6-1

戻る
進む
印刷
メニュー

<http://www.amber.go.jp/challenge/>



**チャレンジ・サイト**  
challenge site

### 事例紹介

個人・団体 1

## 行政に頼るばかりではなく、生活者の視点からの“地域コミュニティづくり”を目指して

NPO法人  
コミュニティ・サポートセンター神戸 (CS神戸)  
理事長 **中村順子** さん | 兵庫県神戸市



**神戸・震災被災者をきっかけに生まれた組織**

コミュニティ・サポートセンター神戸 (以下CS神戸) は、阪神地区を拠点にNPOやコミュニティビジネスの立ち上げに関する支援のほか、地域に密着した「共生型課題の町づくり」を理念に、さまざまな活動を行っているNPO法人です。現在の事業内容は、高齢者や障害者への福祉事業、大規模災害をきっかけに生まれたボランティアグループ「東灘地域助け合いネットワーク」が母体となって結成されました。助け合いネットワークの創始者で、現在はCS神戸の理事長を務める中村順子さんは、震災当時(95年)をこう振り返ります。

「震災の直後に各地に避難所が作られました。すべての人が安全な場所に避難できたわけではなく、自宅で暮らしている障害者や高齢者もまだまだ数多くいました。そういう人たちをなんとか助けたいという思いが助け合いネットワーク結成のそもそものきっかけ。まずは4人の仲間が集まって「あなたの家のお風呂に水をいっぺい溜めます」と謳って水汲みから始めました。生き延びるために一番必要なのは飲料水。水さえあれば、少しは不安な気持ちが癒されるのではないかと考えたんです」

**ものを提供するところから、地域コミュニティの再構築へ**

中村さんは80年代から10数年の間、高齢者や障害者のための生活支援団体「神戸ライフケア協会」のスタッフとして活動してきました。そのせいもあって、震災時には生活弱者の被害が一番に気にかかっていたといいます。その後はボランティアの受け皿として、調理室を築いたり、地域のコミュニティ作りにも協力したりと、目の回るような忙しい日々を過ごすことになりました。

「でも、ラインラインが繋がって一環環すると、被災者たちの間に“やってもらうのが当たり前”という依存の風潮が生まれてきたのに気づきました。そこで、ものやサービスを提供するだけじゃなくて、自立を支援する方向に転換したほうがいいのでは、翌96年にCS神戸を立ち上げることになったんです」

CS神戸は“あなたは地域のために何ができますか?”と被災者たちに問いかけて、思いを同じとする人々を結集化することからスタートしました。つまりは地域コミュニティを再構築し復興を促すための「中核支援団体」として誕生したというわけです。しかし、支援事業には「お金やネットワーク」も不可欠。後々に行政の委託事業や協議などの自主事業にも手を広げるようになり、今に至っています。

**復興支援から防災型のコミュニティづくりへと展開**

「現在はNPO法人設立のための支援のほか、“くくるプロジェクト”と銘打って、福祉・交通・エネルギー・自然・食などすべての生活分野で“防災型のコミュニティ”を形成するための事業を推進しています。例えば今試みているのが、市バスが通っていない地域に独自のルートを通すバスを走らせるというプロジェクト。足が不自由な人や高齢者が自由に出かけられないなんて、とてもまっとうな社会とは言えませんがね!」

精力的中村さんですが、視覚を含め、こうしたNPOや地域活動には、女性の力が大きく貢献しているようです。ちなみにCS神戸の前身「東灘地域助け合いネットワーク」のボランティアメンバーは70%が女性。現在CS神戸が支援している事業団体も47のうち27は女性が代表を務めている団体だといいます。

**NPO活動には女性のしなやかな強みがある**

「もちろん男性の力も大きいですが、地域の中で生活し、さまざまな人たちのネットワークを持っている女性は、生活に根ざした視点や感性、何事にもとらわれない柔軟な発想、共感実行力を持っているという点で、NPOの活動にはうってつけなんです。CS神戸では“生活レベルでの行政改革”を狙っているんですが、その実現のためにも、さらなる女性の活躍に期待したいですね」

震災の時に私たちに元気をくれた人にあ礼をしたい。今度は私たちが誰かに元気を与える番です。と語る中村さんは、最近講演のために全国に遠征することも多いが、「地域のみんなのこころ(心)」を「行政(官)」だけでなく「みんな(民)」で想っていくというCS神戸の新しい試みは、阪神エリアの絆を結ぶ、今や全国の地域づくりのモデルケースとしても注目を集めているようです。

★ページトップへ

内閣府 政策実現推進TOP: チャレンジ・サイトとは | リンク集 | お問い合わせ

Copyright © 2004, Nikkei-FU All rights reserved. 〒120-8914 東京都千代田区千代田1-6-1



- 最新のチャレンジテーマ10
- ※おきたい
  - ※キャリアアップしたい
  - ※転職したい
  - ※NPOで活躍したい
  - ※海外から分野で活躍したい
  - ※まちづくりに参加したい
  - ※ボランティアに参加したい
  - ※研究分野で活躍したい
  - ※海外分野で活躍したい
  - ※異業・分野で活躍している
- 事例紹介
- センター・支援機関
  - 個人・団体
  - 職業紹介
- HOME

### 事例紹介

個人・団体 1

## 行政に頼るばかりではなく、生活者の視点からの“地域コミュニティづくり”を目指して

NPO法人  
コミュニティ・サポートセンター神戸 (CS神戸)  
理事長 **中村順子** さん | 兵庫県神戸市



神戸・震災被災者をきっかけに生まれた組織  
コミュニティ・サポートセンター神戸 (以下CS神戸) は、阪神地区を拠点にNPOやコミュニティビジネスの立ち上げに関する支援のほか、地域に密着した「共生型課題の町づくり」を理念に、さまざまな活動を行っているNPO法人です。現在の事業内容は、高齢者や障害者への福祉事業、大規模災害をきっかけに生まれたボランティアグループ「東灘地域助け合いネットワーク」が母体となって結成されました。助け合いネットワークの創始者で、現在はCS神戸の理事長を務める中村順子さんは、震災当時(95年)をこう振り返ります。

「震災の直後に各地に避難所が作られました。すべての人が安全な場所に避難できたわけではなく、自宅で暮らしている障害者や高齢者もまだまだ数多くいました。そういう人たちをなんとか助けたいという思いが助け合いネットワーク結成のそもそものきっかけ。まずは4人の仲間が集まって「あなたの家のお風呂に水をいっぺい溜めます」と謳って水汲みから始めました。生き延びるために一番必要なのは飲料水。水さえあれば、少しは不安な気持ちが癒されるのではないかと考えたんです」

### ものを提供するところから、地域コミュニティの再構築へ

中村さんは80年代から10数年の間、高齢者や障害者のための生活支援団体「神戸ライフケア協会」のスタッフとして活動してきました。そのせいもあって、震災時には生活弱者の被害が一番に気にかかっていたといいます。その後はボランティアの受け皿として、調理室を築ったり、地域のコミュニティ作りにも協力したりと、目の回るような忙しい日々を過ごすことになりました。

「でも、ラインラインが繋がって一環環すると、被災者たちの間に“やってもらうのが当たり前”という依存の風潮が生まれてきたのに気づきました。そこで、ものやサービスを提供するだけじゃなくて、自立を支援する方向に転換したほうがいいのでは、翌96年にCS神戸を立ち上げることになったんです」



CS神戸理事長・中村順子さん。結婚し子育てしながらの活動に専念していた50代半ばに「このままではいけないから」とと人知れずNPOを創設。ボランティア団体に参加。その後、震災を契機に自ら中心となり民間団体を立ち上げた。行動的だけでなく、イギリスと中国訪問団体のことを学ぶために何度も足を運ぶなど、勉強熱心な一面も。

CS神戸は“あなたは地域のために何ができますか?”と被災者たちに問いかけて、思いを同じとする人々を結集化することからスタートしました。つまりは地域コミュニティを再構築し復興を促すための「中核支援団体」として誕生したというわけです。しかし、支援事業には「お金やネットワーク」も不可欠。後々に行政の委託事業や協議などの自主事業にも手を広げるようになり、今に至っています。

### 復興支援から防災型のコミュニティづくりへと展開

「現在はNPO法人設立のための支援のほか、“くくるプロジェクト”と銘打って、福祉・交通・エネルギー・自然・食などすべての生活分野で“防災型のコミュニティ”を形成するための事業を推進しています。例えば今試みているのが、市バスが通っていない地域に独自のルートを通すバスを走らせるというプロジェクト。足が不自由な人や高齢者が自由に出かけられないなんて、とてもまっとうな社会とは言えませんがね!」



中村順子さんと、高橋子さん(宝塚NPOセンター代表)、渡辺はつ子さん(兵庫県職員)の共催によるP5の会の発行たち「兵庫ジャーナル」(1冊・600円)、発行をききあげにさまざまな活動を行なうようになった女性たちのことが詳しく記されている。売り上げはNPOの運営資金に回される

精力的中村さんですが、視覚を含め、こうしたNPOや地域活動には、女性の力が大きく貢献しているようです。ちなみにCS神戸の前身「東灘地域助け合いネットワーク」のボランティアメンバーは70%が女性。現在CS神戸が支援している事業団体も47のうち27は女性が代表を務めている団体だといいます。

### NPO活動には女性のしなやかな強みがある

「もちろん男性の力も大きいですが、地域の中で生活し、さまざまな人たちのネットワークを持っている女性は、生活に根ざした視点や感性、何事にもとらわれない柔軟な発想、共感実行力を持っているという点で、NPOの活動にはうってつけなんです。CS神戸では“生活レベルでの行政改革”を狙っているんですが、その実現のためにも、さらなる女性の活躍に期待したいですね」

震災の時に私たちに元気をくれた人にあ礼をしたい。今度は私たちが誰かに元気を与える番です。と語る中村さんは、最近講演のために全国に遠征することも多いが、「地域のみんなのこころ(心)」を「行政(官)」だけでなく「みんな(民)」で想っていくというCS神戸の新しい試みは、阪神エリアの絆を結ぶ、今や全国の地域づくりのモデルケースとしても注目を集めているようです。

★ページトップへ

内閣府 政策実現推進TOP: チャレンジ・サイトとは | リンク集 | お問い合わせ

Copyright © 2004, Nikkei-FU All rights reserved. 〒120-8914 東京都千代田区千代田1-6-1



- みんなのチャレンジテーマ10
- 働きたい
  - キャリアアップしたい
  - 転職したい
  - NPOで活躍したい
  - 資料も自分で活躍したい
  - まちづくりに参加したい
  - ボランティアに参加したい
  - 研究分野で活躍したい
  - 海外分野で活躍したい
  - 育児・子育て中
- 事例紹介
- センター・支援機関
  - 個人・団体
  - 施設紹介
- HOME

## 事例紹介

個人・団体

# 「楽しみながらボランティア」の積極精神が 1つの団地を元気ある街に育てる

大山自治会  
会長 佐藤良子さん | 東京都立川市

生活の場における安心の「ママさんサポートセンター」  
広大な団地に自然とスポーツ施設が共存する昭和の西記念公園のすぐ近く、都立上野町1丁目アパート（通称・大山団地）高層団地の間に建つ自治会事務所には、まようも自治会長に就任の上顧問に来た人や、地域の清掃活動に参加している人、市役所の人などさまざまな人物が訪れます。自治会長は佐藤良子さん。この大山団地に住み、5年ほど自治会長を務めています。



佐藤良子大山自治会会長。現在、自治会専用バスを運行し、24時間体制

事務所は、自治会が運営する「ママさんサポートセンター（大山けいじ）」という子育て支援の活動の拠点でもあります。育児相談や情報交換、一時保育や講座・研修会の企画、お年寄りのサポートなどを行い、住人の心強い味方として様々な信頼と評価を得ています。



事務所で、多様な仕事をフォローしてくれるのを見て

「ママさんサポートセンターは、住人による住人のための組織です。まず、最初に参加する人から、住人の悩みや悩みを聞いて、みんなに情報を出して、プロパシヤーが守れるような人で困る必要があったので、運営は難しくなりました。それから、看護師、保育士、サマリアンなどさまざまな職種の人を募集しました。それぞれが空いている時間は、自分が役に立てる分野でサポートをしていくんです」  
現在、メンバーは30名。子育てや家内での問題だけでなく、学校との連携、児童相談所や民生委員、教育相談所などの連携もとりながら、さまざまなケースに対応していきます。

あらゆることに役立つボランティア活動  
こうした活動の先陣に立っている佐藤さんのこれまでを振り返ると、上の子どもが小学生、一歳下はまだ2歳と、団地の会合に委任状を出して欠席した際に隣の自治会長に決まっていたのはびっくりでした。「何となく来たばかりで私もなまじりからいままは頼り込みました。副会長のお年寄りの方がおのづから自治会の運営まで親切に教えてくれて、子どもの面倒を見てくれたり、近所の人も助けてくれたり、人のつながりのおかげで夜もさうぞうでした。そしてここ1年間、一階の会合やつらねてもらったんです。それから子供の位置やPTAをはじめ、さまざまなボランティア活動を積極的に参加する意欲が生まれたのだと思います」と佐藤さん。



高層団地の300人が住む大山団地の真ん中にある自治会事務所。午前中は公園やジョギングイベントなどに使えるフリースペース、身の回り品にもこの集まりがよく使われます

再び大山団地の自治会会長に選出された1999年、団地は高層建て替えにもない1200世帯約3000人の規模にまで拡大していった。月400円の自治会費と補助金で年間予算約1500万円。これで自治会の運営を任せられた佐藤さんは、まず1つの地域の知恵のようであり、会社の社員のようにもなります。ボランティア活動で多助の人と交流し、さまざまなイベントや事業を行って来た経験を生かして、新しい街づくりへのあががスタートしました。



自治会専用バス入り口に設けられた郵便受箱。住人の困り事も、もちろん受け付けます

お金はクリアにする、相談ごとには早めに答える  
大層な事をまとめるのに、団地を2つのエリアに分けて区長制を取り入れました。区長が会費を回収し、自治会が発行するさまざまな情報をいち早く伝達したり、速に小さな相談事を聞いてあげたり、重要な役割を担います。  
「区長のやる気のおかげと、年2回の会計監査報告でお金をちゃんとクリアにすることで住人のみなさんの理解を得ていますから、会費の回収率は100%。管理費は別に種ごとの独立会計にしていますが、これもすべてスムーズにいきます」

各エリアで持ち上がっている問題は区長があらゆる自治会に提示してあげる「御意見箱」を設けました。ここに投じられる手紙を見て、佐藤さんは次の会合までに相談事に対する答えや方針を用意しておきます。「会合ではじめて悩みや提案を聞くのでは答えが返りません。人の気持ちを考え、早く解答なり、解決の糸口を見つけてあげることが大切」。

自治会生活で街のみんなが元気、街に還元していく  
自治会長のリーダーシップはとどまるどころではありません。団地内の草取り清掃で1時間1000円のアルバイトを募り、地元の任意団体など若い人からお年寄りまで、みんなが参加してお小遣い稼ぎと同時に交流を深めてもらう橋をつくる。個人宅で大きくなりすぎた樹木を剪入れられる場所を確保し、速乾の発酵で団地に緑を植え、それまで得ていたネットワークや地元の企業への積極的な呼びかけで、60歳以上の人の就職の機会を創出するなど。

そしていま、自治会は、会費のほかいくつかの収益をあげるようになりました。東京都から有料駐車場の管理を委託され、また、立川西から上野公園の管理を請負い、これらの収入を地元の美化などに還元しています。「会費などで集まるお金だけで新しいこと、もっとおもしろいこと、なかなかできませんから」伊藤会長の町づくりのチャレンジは、まだまだ続きます。

ホームページへ

内閣府男女共同参画局TOP | チャレンジ・サイトとは | リンク集 | お問い合わせ

Copyright © 2004, All Rights Reserved. 〒100-0014 東京都千代田区千代田1-4-1